

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【大湊区】意見交換の内容

開催日：令和８年５月１８日（月）

会 場：大湊コミュニティプラザ

参加者：３４人

（参加者）

地域活性化において大切なのは、知恵とお金だと思っています。以前は地域活動支援事業がありましたが、様々な課題があって現在は地域独自の予算事業に変わっています。ただ、その切替時の評価が本当に正しかったのか疑問に感じています。むしろ、地域独自の予算事業を実施してから数年が経った今の段階で、改めて評価し直し、見直すべきではないでしょうか。個人的には、地域活動支援事業の方が地域の活性化に役立っていたのではないかと考えています。また、私が役員を務める団体では、地域独自の予算事業を上手く活用できていません。この点からも、地区予算や地域独自の予算事業そのものについて見直しが必要だと感じています。必ずしも地域活動支援事業に戻すべきということではなく、資金とアイデアを結びつける仕組みを再検討し、個人や団体が自由に提案できる仕組みづくりができればいいのではないかと考えています。

（市長）

市でも現在検討を進めており、今後、皆さまと意見交換の場を設ける予定です。現時点でも一定の考えはありますが、まずは皆さまのご意見をお聞かせください。

（参加者）

高田の桜を再生させるには、吉野の千本桜の考え方が有効だと思っています。観桜会に訪れた観光客に桜の苗木を販売し、植樹と記念撮影を行うことで、５年後、１０年後に自分の桜を見に来るという流れが生まれます。あまりお金がかからず、桜の木も増えます。ただし、その後の維持管理が課題です。

（市長）

検討させていただきます。

（参加者）

地域活動支援事業の頃から「九戸浜のお宝発掘事業」で制度を活用させていただいています。主に地域の掘り起こしを資料としてまとめて地域に提供していくというものです。九戸浜町内には団地がいくつかあり、外から来られた方が多くいます。そのため、地域のことをあまり知らない人も多く、「地域の歴史が分かる資料をまとめてみんなに提供してほしい」と言われたことがきっかけで、ずっと続けています。これまでに冊子を２冊作成

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【大潟区】意見交換の内容

し、現在 3 冊目の作成を進めています。

地域活性化の基本として、地域を正しく理解することが地域への愛着につながっていると思います。そこで、この地域独自の予算事業を使ってこのような取組を行っております。

(参加者)

地域独自の予算事業の見直しは良いことだと思いますが、制度だけでなく上越市の場合は 28 という区割りがあり、中にはエリアが狭いところもあります。これを見直さないといろんな施策が小さい枠に留まってしまいます。地区は合併しなくてもいいのですが、一緒にプロジェクトを考えるといった対応が必要になると思います。例えば観光や地域の魅力発信、移住対策は、各地域がそれぞれに取り組んでおり、市としての統一性が全くありません。この状況でいいのかということを市民に問いかけてほしいです。地域独自の予算事業だけではなく、地域自治の在り方、28 区の妥当性について市民の意見を聞く場を設けてください。前市長の時から地域自治プロジェクトを何年も検討してきましたが、進捗が悪いです。3 月にある程度案を出すと言っていたものすら守られていません。これから各区の委員に説明をすることに対してもこんなことでいいのかと思っています。地域自治の在り方そのものについて全市民対象に議論する場を作るべきだと思いますし、その中に地域独自の予算事業の話も出てくるべきです。また、地域独自の予算事業も含め、この「地域」という言い方を外したほうが良いと思います。ぜひご検討ください。

(参加者)

地域独自の予算事業と地域活動支援事業の両方に提案した団体に携わっております。一つは郷土史の学習・調査をしている大潟区の団体で、もう一つは人魚館に関する活動を行う団体です。

地域活動支援事業のときは、一つ目の団体で大潟区にある新堀川を江戸時代に開削した庄屋の記録について古文書から現代語に直して、2 回ほど出版するときに活用しました。また、二つ目の団体では、人魚館の美化活動事業として人魚館前の広場の草刈り事業などを行っています。地域活動支援事業と地域独自の予算事業を比べると、地域活動支援事業の方が提案しやすく、身近で使いやすい制度でした。一方で、現在の地域独自の予算事業は非常に提案しにくく、あまりいい印象はありません。自己負担についても、今まで地域活動支援事業を活用している団体は少なく、初めて活用する団体には非常に多いという差もあります。当時、議会から予算を決めるのは市議会議員、との指摘があり制度が変わった経緯があると認識していますが、地域が提案・審査し、最終的に市長が決裁する流れであれば問題はなく、前の制度に戻した方がよいと考えます。

(参加者)

私も地域独自の予算事業には当初から反対の立場です。地域活動支援事業は、小さい団

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【大潟区】意見交換の内容

体や資金力のない団体でも参加できた実績がありましたので、全面的に支持してきました。地域独自の予算事業については、議会から地域協議会が金銭面を協議するのはもってのほかと指摘があったことから、おそらく前市長が考えてこのような負担率を決めて、職員の皆さんにもかなり負担がかかる形にしたのだと思います。以前は地域協議会が一定の判断まで行っていました。小規模団体でも使いやすい制度への見直しをお願いしたいです。

（参加者）

私の携わる団体では大きな備品をなかなか買えないという状況があり、地域活動支援事業を利用して活動しています。大きな備品がないと活動が難しいため、地域活動支援事業が非常に有効だったと感じています。地域活動支援事業という名称は別にしても、活動がスムーズにいくような補助体制をお願いしたいと思っています。

また、少子化により地域単位での活動が限界に近づいています。中学生の部活動の地域展開についても、大潟区単独では対応が難しくなっています。今後は、市全体・広域での連携を前提とした仕組みが必要だと思っています。

（市長）

いろいろと貴重な論点があったと思いますが、一つは見直しのスピード感の問題です。来年度からの実施に向けて見直しを進めておりますので、遅れてはいません。近いうちに市の職員が伺って地域協議会や関連する皆さんと話し合いを行いたいと思います。腹案はありますので、夏までには進めたいと思います。その後、来年度に向けた提案を皆さんからいただかないといけませんので、現在の地域独自の予算事業に近い内容で行うか、以前の地域活動支援事業に近い内容で行うか、今後、地域との意見交換を行いながら判断したいと考えています。自主財源の確保が困難であるという意見を踏まえ、基本的には提案団体に負担分を強制的に求める、ということはやめたいと思っています。ただし、収益性のある事業については一定の負担をお願いしたいと思います。また、新たに始める小さい事業についても、スタートアップ支援を検討しています。

体制に関しては、担い手不足、統一性がないといった課題について、広域化を一緒に考えながら進めていきたいと思っています。備品整備についても、地域の予算だけでなく一般予算で対応する方法も含め、使いやすい仕組みを検討していきたいと考えています。

（参加者）

現在、大潟区の地域協議会では2つの自主的審議事項を進めています。1つ目は、地域の魅力の向上で、大潟区の良いところを発信していく方法を検討しています。2つ目は、公共交通、特に交通弱者への支援についてです。高齢者や高校生以下の若者など、移動手段が限られている方への対応が必要だと考えています。この交通政策について市の考えを

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【大潟区】意見交換の内容

お聞きしたいです。現在の仕組みは国や県も含めて区単位で進められており、連携が十分に取れていないと感じています。例えば、大潟区内には総合病院がなく、これまでは近隣の新潟労災病院を利用していましたが、閉院により上越総合病院か高田方面まで通院距離が延びました。その結果、交通手段がない人はタクシーを使うしかなく、片道数千円、往復で1万円以上、場合によっては2万円近くかかることもあります。そのため、通院回数を制限せざるを得ない状況が生じています。また、地域協議会で「いきいきサロン」を訪問し、高齢者の声を直接聞く取組を行いました。その中では、免許返納を考えているがバス停が遠いといった不安の声があがっています。一方で、交通政策課から市や県の施策について説明を受けましたが、制度が複雑で、現場としては行き詰まり感があります。そのため、地域ごとの実情に応じた、よりきめ細かく、小回りの利く施策が必要ではないかと考えています。地域協議会で対応できない部分については、市として課題認識を持ち、対応していただきたいと思います。

（市長）

ご指摘の内容は非常に重要な課題だと認識しています。まず、医療機関の再編により通院距離が延びたことに伴う移動手段の問題は、まさに医療体制の見直しと一体で対応すべき課題です。また、ご指摘のとおり、区単位だけではなく、複数の区にまたがる広域的な交通網として整備していく必要があります。具体的なお困りごとについては、個別に相談いただければ対応を検討していきます。

（参加者）

地域活性化に関して、担い手の問題と新しい視点の導入についてお聞きします。現在、地域の活動に関わる人は、組織や会合が変わっても顔ぶれがあまり変わらない状況です。これは退職年齢の高齢化などの影響もあり、やむを得ない部分もあると思います。そのような中で、例えば、鵜の浜温泉の活性化において、新しい視点やノウハウ、関係づくりを進める力を持った地域おこし協力隊のような人材を配置することで、組織づくりや新しい手法を導入し、それを地域が引き継いでいけるようなモデルケースがあるかお聞きしたいです。

（大潟区総合事務所長）

現在、大潟区には地域おこし協力隊は配置されていませんが、過去にはジムリーナの活用のために配置された例はあります。今後、鵜の浜温泉の活性化など具体的なニーズがあれば、関係部署につながりますのでご相談ください。

（市長）

地域づくりの担い手不足についても、市として検討を進めています。地域協議会や町内

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【大潟区】意見交換の内容

会、各団体を上手くまとめたような地域運営組織の形を検討するとともに、必要に応じて若い人材や事務を担う人材を市の予算で配置することも考えています。また、地域おこし協力隊についても、特定地域に限らず必要な場所に配置する方向で検討していきます。鵜の浜温泉をどうやって活性化していくか、これは大事な話だと思いますので、可能性を考えていきたいと思います。

（参加者）

市が主催の地域づくり連携講座に参加しました。市が地域づくりや後継者育成に取り組んでいることには感謝しています。ただ、実際の会場では、ここに参加しているようなメンバーの顔があまり見られませんでした。現在、他地域では創造行政研究所が入って地域づくりを進めている例もありますので、大潟区でもそうした専門家を招いた勉強会やミーティングを開催していただけるとありがたいです。

（市長）

それについてはいつでもできると思います。

（大潟区総合事務所長）

現在は中山間地域から優先的に専門家を入れて順次進めていますので、調整が必要です。ご要望として担当課に伝え、検討していきます。

（参加者）

資料6 ページの農政の将来に関する取組の中にあるスマート農業の推進についてお聞きします。現在、AI ドローンの話題が多く取り上げられていますが、実際に農業分野でどの程度活用されているのでしょうか。もし国の先進的な実証事業や支援制度があれば、上越市もいち早く取り入れ、進めていただきたいと思います。すでに取り組んでいるのであれば、より先進的に進めていただきたいと思います。

（大潟区総合事務所長）

会場には実際に農業に携わっている方もいらっしゃいますので、実情についてご紹介をお願いしたいと思います。

（参加者）

現在、AI を活用した農業は盛んに行っています。ただし大きな課題として、機材が非常に高額であるため、導入できる農家とできない農家の差が出ている点があります。お金をかければ事務所から水も出せるし圃場に行かなくても済むような農業が可能な時代になっています。近くでも大企業でかなり進んだ農業を実施しているところがあります。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【大潟区】意見交換の内容

（市長）

ドローンによる農薬散布や種まきを見たことがありますし、また自動草刈り機なども実際に導入されています。中山間地域ではAI なりドローンが使えないという議論もありますが、私は中山間地域でも十分活用できると考えています。

（参加者）

資金力があるところは自己負担でスマート農業技術を導入できますが、多くの農家にとっては難しい状況です。そのため、市として国の補助制度などを活用し、導入支援を行っていただきたいと考えています。

（参加者）

ドローンの話から派生しますが、現在、国や県が主導して米の輸出を進めており、私たちも5年ほど前から取り組んでいます。上越市内で会社として本格的に輸出に取り組んでいるのは、現状では当社が中心となっている状況です。他の農家の皆さんが生産された米も、当社で輸出用としてまとめて販売しています。現在は、上越市農業再生協議会の中で輸出用米研究会が設置され、活動が進んでいます。また、新潟県でもN-Rise という組織が立ち上がり、輸出を進めていく体制整備が進んでいます。市の農業振興課とも連携しながら取り組んでいます。その中で大きな課題として感じているのが人事異動です。市・県・国いずれの機関においても、担当者が数年で異動してしまうため、長期的に進めてきたプロジェクトに影響が出ています。長期的な取組を進める上では、一定期間、担当者を固定するなどの配慮が必要だと感じています。人事の問題であるため難しい部分はあると思いますが、現場の要望としてお伝えします。

（市長）

組織としては本来、人に依存するのではなく、組織としてノウハウを蓄積していく必要があります。そのため、担当者が変わることで事業に影響が出る状況については改善すべき課題であると認識しました。

（総務部長）

スマート農業や機械導入の支援については、国も強く推進しており、市としても連携して取り組んでいます。今後、国・県・関係団体と連携しながら、農業者に対して必要な支援を行っていききたいと思います。

（市長）

平野部では活用できない場合があるかもしれませんが、いわゆる中山間地農業について

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【大潟区】意見交換の内容

は、ご承知のとおり国土強靱化や経済安全保障の観点から様々なスキームがあります。農産物の輸出は今後の成長分野であり、フードテックなどの分野とも連携しながら進める必要があります。どのような補助制度を活用できるかも含め、関係機関と協力しながら取組を進めていきたいと考えています。

（参加者）

市が観光に力を入れているとお聞きし、大潟区としても取組を強化していきたいと考えています。今年は海岸侵食の影響も比較的少なく、海水浴場の開設も見込める状況です。また、大潟区には上越唯一の温泉旅館街である鵜の浜温泉や海岸のキャンプ場があります。誘客のために新たな施設を大規模に整備することは、予算的に難しいと思います。そのため、比較的短期間で効果が見込める方法として、私どもが提案しているのは公衆トイレの整備です。実際に、小さな子どもが和式トイレを使えない、外国人観光客が洋式でないことを理由に利用を断念したといった事例があります。トイレは施設の中で地味な存在ではありますが、非常に重要な要素であり、誘客に直結する基盤だと考えています。ぜひ整備をご検討いただきたいと思います。

（市長）

トイレ整備については、具体的な場所を示していただければ対応を検討します。また、鵜の浜温泉の活性化は重要な課題であり、さまざまな問題があることも認識しています。情報発信については、従来のパンフレットだけでは不十分です。現在は SNS の活用が不可欠であり、インフルエンサーの活用など、多様な手法を取り入れるべきだと考えています。SNS を活用することで、全国や海外に向けた発信が可能となり、比較的低コストで誘客効果が期待できます。市の「Meet Japan in Joetsu」でも SNS 活用を進めていきますので、そういった手法も検討いただければと思います。

（参加者）

観光や地域活性化の観点から、インフラ整備について提案します。現在、信越本線南側では工業団地の整備が進んでおり、企業誘致や雇用増加が期待されています。この流れをさらに活かすため、高速道路のサービスエリアの新設を検討していただきたいと思います。現状では、米山から名立までサービスエリアがなく、休憩や物産販売の機能が不足しています。そのため、工業団地と合わせて、道の駅のような機能を持つサービスエリアを地域計画に位置付けていただければ、地域振興につながると考えています。

（大潟区総合事務所長）

現在、大潟区には 24 時間のスマートインターとパーキングエリアがありますが、それをさらに充実させたサービスエリアにしたいというご意見をいただきました。高速道路施

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【大潟区】意見交換の内容

設は管理主体があるため、関係機関へ要望していく形になります。引き続き皆さまのご意見も伺いたいと思います。

（参加者）

サービスエリアはおおむね 50km ごとに設置される基準がありますので、その条件がある点を補足します。

（参加者）

過去に大潟区にサービスエリアを設置する構想があったものの、地権者の反対で実現しなかったと聞いています。現在はスマートインターの利用も多いため、その周辺を道の駅のような形で整備できれば、地域振興につながるのではないかと考えています。

（大潟区総合事務所長）

工業団地については、今年度に事業者を決定して整備を進め、来年度から分譲開始予定です。地域の状況も変化していくことが見込まれますので、本件のご提案は関係部署へ伝えま

（参加者）

最後をお願いします。6 月 6 日のかつぱ祭りにぜひご参加いただきたいと思います。

（市長）

ぜひ参加させていただきます。楽しみにしております。